

京都大学

教育学部紀要

第43号

思考における二重の過程について

Einige Ergebnisse aus meiner psychiatrischen und psychotherapeutischer, Praxis und einige Vorschläge zu der Haltung, die der Therapeut dem Patienten gegenüber meines Erachtens einzunehmen hat

箱庭療法によるアボリジニの子どもの世界

学校開放と社会教育施設

図書館記録の秘密性

—— ブラウン対ジョンストン事件（1983年）を中心として ——

単語完成における検索意図の影響

—— Jacoby と Hollingshead（1990）の二段階モデルの検討 ——

意味構成のコンテキスト —— 分数指導の再検討 ——

ピオンにおける Container/Contained 論の変遷

『丹生都比売』に見る「傷ついた子ども」

「こころ」についてのシステム論的考察

発話に伴う身振りの表記法作成の試み

人格機能における不安体験の意味

中年期女性の身体イメージと自己評価の関連性

—— 身体変化受容の内的過程について ——

Gender Identity の初期形成についての理論的検討 —— 臨床的見地から ——

複雑系としての認知

—— 発達におけるダイナミック・システムズ・アプローチ ——

子どもの物語作り

生活改善運動における中流生活の提唱 —— 台所改善を中心として ——

ランゲフェルド教育学の学的性格

—— 「実践的、状況分析的学」としての教育学の科学性とその意義 ——

自閉性障害幼児における自発的共同注意の発生について

京都大学教育学部紀要第43号

目次

論文:

| | | |
|---|-------------------|-----|
| 思考における二重の過程について | 坂野 登 | 1 |
| Einige Ergebnisse aus meiner psychiatrischen und psychotherapeutischen Praxis und einige Vorschläge zu der Haltung, die der Therapeut dem Patienten gegenüber meines Erachtens einzunehmen hat | YAMANAKA Yasuhiro | 13 |
| 箱庭療法によるアボリジニの子どもの世界 | 岡田 康伸 | 23 |
| 学校開放と社会教育施設 | 上杉 孝實 | 44 |
| 図書館記録の秘密性 | 川崎 良孝 | 61 |
| —— ブラウン対ジョンストン事件(1983年)を中心として —— | | |
| 単語完成における検索意図の影響 | 藤田 哲也 | 79 |
| —— Jacoby と Hollingshead (1990) の二段階モデルの検討 —— | | |
| 意味構成のコンテクスト —— 分数指導の再検討 —— | 松下 佳代 | 93 |
| ビオンにおける Container/Contained 論の変遷 | 青柳 寛之 | 117 |
| 『丹生都比売』に見る「傷ついた子ども」 | 市野 直美 | 128 |
| 「こころ」についてのシステム論的考察 | 大山 泰宏 | 139 |
| 発話に伴う身振りの表記法作成の試み | 西尾 新 | 149 |
| 人格機能における不安体験の意味 | 森田 慎 | 161 |
| 中年期女性の身体イメージと自己評価の関連性 | 國吉 知子 | 171 |
| —— 身体変化受容の内的過程について —— | | |
| Gender Identity の初期形成についての理論的検討 | 久野 晶子 | 183 |
| —— 臨床的見地から —— | | |
| 複雑系としての認知 | 廣瀬 直哉 | 193 |
| —— 発達におけるダイナミック・システムズ・アプローチ —— | | |
| 子どもの物語作り | 松浦 ひろみ | 203 |
| 生活改善運動における中流生活の提唱 | 瀧端 真理子 | 210 |
| —— 台所改善を中心として —— | | |
| ランゲフェルド教育学の学的性格 | 荒井 聡史 | 220 |
| —— 「実践的、状況分析的学」としての教育学の科学性とその意義 —— | | |
| 自閉性障害幼児における自発的共同注意の発生について | 松田 千都 | 230 |

平成8年度修士論文

| 氏名 | 論文題目 |
|--------|---|
| 北村 嘉恵 | 日本統治下台湾知識人の教育認識 |
| 高木 郁子 | 本郷プランの構想と具体的展開 |
| 富永 訓志 | 自然科学教育における認識論的基礎について —仮説実験授業と極地方式との比較において— |
| 辛 椿 仙 | 和田実における「遊戯教育論」の特質 |
| 郷 式 徹 | 「心の理論」課題による幼児の他者の心的状態の理解と 自己の心的状態の理解の違いの検討 |
| 田中 久美子 | 大学生の被服行動に関する研究—自己関連尺度を用いて— |
| 三家 その | 「受験」をめぐる言説の社会学的分析 |
| 宮原 道子 | 前額部皮膚温とパーソナリティ特性及び認識的能力の関連について —温度センサを用いて— |
| 室井 みや | 干渉課題による選択的情報処理システムの検討 |
| 山内 加代子 | 応諾獲得方法が受け手の応諾及び応諾に関わる認知・感情に及ぼす影響の検討 |
| 山向 飛鳥 | 英文読解における認知スタイルと読解方略の関係、及びそのメタ認知的意識 についての検討 |
| 吉村 澄代 | 中国の改革・開放政策下における大学の自主権の拡大 —経済改革との関連性においての一考察— |
| 許 佳 美 | 幼児の「心の理論」の発達ときょうだい数及び親の養育態度との関係 —中・日比較調査— |
| 薄葉 毅史 | ノルベルト・エリアスのプロセス社会学 —その理論構成と、歴史研究における意義— |
| 徐 孝 平 | 高度経済成長期における企業と職業高校 |
| 足立 正道 | 思春期における家族布置の研究言語連想検査を用いて |
| 鈴木 卓治 | 「〈臨床〉感覚の必要性—子ども理解の「粹」の変容へ向けて—」 |
| 手塚 真由美 | 対人的「ふれあい」体験の個人差について |
| 西 隆太郎 | 相互作用的コミュニケーションの観点から見た傾聴 |
| 橋本 尚子 | 摂食障害の心理—空虚感・バウムテストより— |
| 秦 真理子 | 箱庭制作過程に関する研究 |
| 水間 玲子 | 自己の理想水準設定について |
| 山内 いづみ | 愛着体験様式と対子ども関係 |
| 山森 路子 | 心身症者の人格構造に関する一研究 —質問紙と描画による boundary の検討から— |

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 荒井 真太郎 | 執着のスタイルについて—現実、および願望イメージのあり方という観点から— |
| 後藤 智子 | 罪悪感の二様態を巡る—考察 |
| 中村 苑子 | アブラハムの物語と心理療法 |
| 松下 姫歌 | 青年期における離人感について—存在構造の実証的研究— |

平成8年度卒業論文

| 氏 名 | 論 文 題 目 |
|-------|--|
| 青野理恵 | 灰谷健次郎の教育論 |
| 有竹紀子 | 教育的タクト—その教育実践に対する意義— |
| 片山勝茂 | 話すことを学ぶ (loqui discere) とはいかなることなのか —アウグスティヌスの言語習得論が教育学に示唆するもの— |
| 楠林かおり | 弱さと強さ—ニーチェの人間観を手がかりに— |
| 小杉佳世子 | 初等教育に対する国際援助・国際協力 |
| 中井裕子 | 学校に音楽教育は必要か—近代日本音楽教育の歴史から考える— |
| 日高佳子 | 父性の役割—現代日本における父親像からの考察— |
| 弘田陽介 | 祭りの人間生成論 |
| 藤村 薫 | 学校教育における罰 |
| 松原由佳子 | 韓国人の日本観—教育問題を中心に— |
| 山川敦子 | 自己学習能力を育てる大学教育 |
| 和氣直子 | ハリー・スタック・サリヴァンにおける対人関係へのまなざし |
| 青山絵美子 | ネパールにおける教育問題—中途退学と児童労働を考える— |
| 岡 亜伊子 | 徳川吉宗の教育政策—出版メディアと子どもへの着目— |
| 村井尚子 | 新ユトレヒト学派における現象学的教育学—「参与的経験」の概念を中心に— |
| 大石久之 | 〈笑い〉に関する一考察 |
| 荻原広和 | ペスタロッチー『探究』における人間観 |
| 山田由美 | 修行について |
| 岩崎紀子 | 生物教育における「探究としての科学」 —シュリブの「探究」理論とその具体化としてのBSCSの検討— |
| 金澤文子 | 成人吃音者の吃音問題解決の検討—「言友会」の活動を中心に— |
| 鷹尾泰伸 | 村井実の道徳教育論—「善さ」の構造と過程像志向を中心に— |
| 仲谷美穂 | 障害者理解につなげる交流教育 |
| 松田亜弥子 | 小砂丘忠義の綴方教育論—大正期の教育実践の検討を中心に— |
| 村元克彦 | 現代を生きた尾崎豊—その出発点と到達点— |
| 吉田 一 | 障害者のスポーツの指導観 |
| 米津志保 | 木下竹次における「合科学習」の意味分類 |
| 原田昭夫 | 概念地図を利用した教材開発—高校化学における教材構造化法— |
| 今西 徹 | 対人恐怖の心性の二面性について |
| 植田美穂 | 他者からの否定的評価に対する原因帰属様式—自己の指針のあり方との関わり— |
| 遠藤正雄 | データ駆動型処理の一致度がブライミング効果に及ぼす影響 |

| | |
|-------|---|
| 大西京子 | 青年期における自我同一性確立の問題—自己感および愛着関係との関連から— |
| 加藤真紀子 | 青年期における交友関係とその満足度 —自尊心及び孤独感尺度を手がかりとして— |
| 久米禎子 | 青年期における自己と友人—依存のあり方を通して— |
| 小原佳代 | 幼児期後期の3者間における社会的相互交渉の発達的特徴 —劇ごっこの役割決定場面を通して— |
| 酒井宏晋 | 大学生のモラトリアムと親子関係の関連について |
| 鷺坂由紀子 | 中年期女性の自我同一性と性格特性—職業と子育てへの関与の仕方を通して— |
| 田中英美 | 青年期における自己と他者の関わりについての—考察 —自己存在感覚に及ぼす「まなざし」の役割との関連から— |
| 鶴賀久仁子 | 「よい子」といわれる子どもたち —過剰適応の子どもの問題点と親の養育態度との関連— |
| 田路慈子 | 大学生の依存性とその性差について —愛着および男らしさ女らしさとの関係から— |
| 仲 淳 | Self-Esteem と自己イメージ—IMQ とバウム・テストを用いた—考察— |
| 七尾真奈 | 青年期における子からみた親イメージの規定因について |
| 鳴岩伸生 | 質問紙によって測定された Self-esteem と自己愛の類似性 |
| 新美秀和 | 物語作成から見た青年期の孤独感 |
| 橋本衣代 | 児童虐待についての—考察 |
| 林美恵子 | ソーシャルサポートがストレスに及ぼす影響 |
| 廣瀬幸市 | 非日常的体験における意識状態について—変性意識状態を手がかりとして— |
| 三浦公士 | 共感性と自己の確立 |
| 山口修一朗 | 言葉への態度と疎外感 |
| 吉崎玲子 | 乳児期における自己の発生・発達について |
| 渡瀬純子 | 受け手が適切と感じる援助の程度について —被援助者の自尊心と課題に対する自我関与度との関連で— |
| 渡部徹志 | Ambiguity Tolerance と自我機能との関係について |
| 酒井麻衣子 | 夢・イメージ性・認知スタイルの相互関係について |
| 佐藤 弥 | 簡便な身体的手法による恐怖緩和の試み |
| 高山 祐 | 喫煙者の行動および性格特性について |
| 中田 彰 | 転調と快感情との関係に及ぼす音楽経験の影響について |
| 橋本 望 | 香りが鼻部皮膚温と課題遂行に与える影響 |
| 福岡千穂 | 青年期の依存性—他者から依存されることを中心として— |
| 衛藤慶興 | 「個と共同体」的視点の有効性について—一生の自由と持続をめぐる—考察— |

| | |
|---------|--|
| 大内田 美 穂 | 入学試験にみられる帰国子女の優遇 |
| 狩 野 常 徳 | マスコミによる態度変容に関する一考察—選挙報道を中心に— |
| 高 敏 裕 樹 | 大学図書館の教育機能と利用教育 |
| 田 中 寛 二 | 宗教, 現代 |
| 中 山 正 樹 | 映画的感動について |
| 西 澤 明 男 | 「女性の仕事」 |
| 波 止 教 史 | 「インターネットの生成」 |
| 燧 正 典 | マス・メディア等, 地域発展に対する新たなキーポイント |
| 守 田 伸 英 | 大学という『世間』と企業 |
| 井 上 義 和 | ハビトゥス概念の再検討と「ゲーム」世界の構築 |
| 岡 田 敬 | 「子どもの本」の社会学的考察 |
| 千 歳 和 芳 | トップアスリートの育成に関する多面的考察 |
| 豊 村 健 史 | スチューデント・アパシーについて |
| 鷗久森 佐 和 | 規制緩和と学校財政—自由裁量予算の使途に関する考察— |
| 黒 田 厚 志 | 平和教育の法的考察—憲法・教基法に即して— |
| 末 富 芳 | インドネシアの開発政策における国民統合教育に関する一考察 —国民統合の教育の理念・展開および民族集団への影響を中心に— |
| 中 井 奨 | 不登校に対する行政の対応に関する考察 —不登校の子どもの権利保障実現のために— |
| 中 尾 浩 子 | 高等教育のポスト大衆化時代における短期大学の新機能 |
| 野 出 明 幸 | 現代の教育改革下における多様化・自主性の尊重と公共性との調整 |
| 橋 田 裕 | 地域における教育参加組織 —川崎市における「地域教育会議」の事例を中心として— |
| 久 原 祥 | 教育行政における中央-地方関係について |
| 品 田 和 宏 | 児童相談所における児童虐待の処遇—その問題点と改善について— |
| 杉 山 和 寛 | 道徳教育に関する行政—その歴史・現状・課題— |
| 高比良 垂 以 | 現代日本における「教育の国際化」の課題 —「開発教育」理念と「グローバル教育」理念の比較検討を通して— |
| 山 崎 弘 貴 | 高校教育改革における総合学科の位置づけと見通し |

| | | | |
|------|------|------|------|
| 編集委員 | 高木英明 | 天野正輝 | 山崎高哉 |
| | 岡田康伸 | 岩井八郎 | |
| 編集員 | 伊藤暢彦 | 松下佳代 | 藤田哲也 |
| | 高月玲子 | 山口健二 | 谷川至孝 |

平成9年3月25日 印刷

平成9年3月31日 発行

発行人 京都大学教育学部
代表者 上杉孝實

印刷所 明文舎印刷株式会社
京都市南区吉祥院池ノ内町10

発行所 京都大学教育学部
京都市左京区吉田本町

Kyoto University Research Studies in Education

No. 43

Contents

| | |
|--|--------------------|
| Dual Processes in Thinking | SAKANO Noboru |
| Einige Ergebnisse aus meiner psychiatrischen und psychotherapeutischen Praxis und einige Vorschläge zu der Haltung, die der Therapeut dem Patienten gegenüber meines Erachtens einzunehmen hat | YAMANAKA Yasuhiro |
| Worlds of Aboriginal Children through the Sandplay Therapy | OKADA Yasunobu |
| School and University Extension and Social Education Facilities..... | UESUGI Takamichi |
| Confidentiality of Library Records: Brown v. Johnston (1983) | KAWASAKI Yoshitaka |
| Intention of Retrieval on Word-Fragment Completion Task: The Generate/ Recognize Model of Performance on Tests of Memory | FUJITA Tetsuya |
| Contexts for Constructing Meaning and Making Sense: Re-examination of Teaching Fractions | MATSUSHITA Kayo |
| The Vicissitudes of Bion's Conception; Container/Contained | AOYAGI Hiroyuki |
| 'Wounded Children' in "Niotu-Hime" | ICHINO Naomi |
| Inquiry into "Psyche" from the Viewpoint of System Theory | OYAMA Yasuhiro |
| Constructing "Coding Methods of Gestures During Speech" | NISHIO Arata |
| Meaning of the Experiencing of Anxiety in Personality Functioning..... | MORITA Shin |
| Body Image and Self-esteem in the Middle-aged Female: The Acceptance of Their Physical Changes | KUNIYOSHI Tomoko |
| A Theoretical Study of the Nascent Phase of Gender Identity Formation — From Clinical Standpoint — | KUNO Akiko |
| Cognition as a Complex System: A Dynamic Systems Approach to Development | HIROSE Naoya |
| The Story Making in Children | MATSUURA Hiromi |
| The Suggestion of the Middle-class Life in the Campaign concerning the Improvement of the Life: In the Perspective of the Improvement of the Kitchen | TAKIBATA Mariko |
| Der Wissenschaftscharakter der Pädagogik M. J. Langevelds — Die Wissenschaftlichkeit und Bedeutung der Pädagogik als "praktischer, situationsanalytischer Wissenschaft" — | ARAI Akifumi |
| The Development of Spontaneous Joint Attention in a Child with Autistic Disorder | MATSUDA Chizu |

The Faculty of Education
Kyoto University
March, 1997